

きときと情報

2023

168号

富山県中小企業団体中央会

特集1 富山県における中小企業の労働事情について

特集2 ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金の採択状況と県内企業の成果事例

経営者に聞く：株式会社山崎 代表取締役社長 山崎 睦典氏

組合紹介：協同組合福岡金属工業団地さんよりこんにちは

中央会いんぷおめーしょん：第75回中小企業団体全国大会に参加しました ほか

表紙のことは 黒部宇奈月 Canyon ルート

裏剣

裏剣は、劔岳を富山平野とは反対の方向から眺めた姿を呼ぶものです。その荒々しい稜線が織りなす威容は、これまでは長く険しい道をたどった登山者など限られた人しか目にすることができませんでした。Canyonルートでは、トンネル内バスをタル沢横坑で下車し、展望台へ進むと見ることができます。タル沢横坑は劔岳とその雪渓にある極東最南端の氷河を望むことができる希少なスポットのひとつで、岩峰と峡谷が織りなす風景に心打たれます。

写真：裏剣

写真左：宇奈月温泉雪上花火大会

(写真提供：(公社)とやま観光推進機構)



経営者・役員・従業員とそのご家族の 安心の保障を準備するために 中央会の共済制度をご活用ください。

BESTパートナー
大樹生命



従業員のための 退職金準備に 特定退職金共済制度

従業員さまの定着が図られ、
安定した退職金準備が
できる共済制度です。

特定退職金共済制度 引受保険会社
大樹生命保険株式会社



経営者・従業員のための 万一の保障 団体扱生命保険

団体扱* (月払) の場合、
一般扱 (口座振替月払等) で
ご契約いただくよりも、
保険料が割安になります！

オーナーズプラン

経営者の
各種リスクマネジメントのために

パートナーズプラン

役員・従業員の皆さまの
保障準備をサポート



業務上の災害への備えに 業務災害補償保険

事業活動にかかわる
従業員さまのケガなどのリスクに
対してお役に立つ保険です。

業務災害補償保険 引受保険会社
三井住友海上火災保険株式会社

業務災害補償保険 取扱代理店
大樹生命保険株式会社



- * 団体扱とは、富山県中小企業団体中央会が団体扱としてお申し込みいただいた各保険契約の保険料を取りまとめ、一括して当社へ払い込む取り扱いのことです。
- ※ 一部対象とならない商品・契約がございますので、詳細は下記までお問い合わせください。
- ※ 詳しくは、該当の「商品パンフレット」をご覧ください。ご検討にあたっては、「設計書(契約概要)」「特に重要な事項のご説明(注意喚起情報)」「ご契約のしおりー約款」および富山県中小企業団体中央会の「退職金共済規程(規約・規則)」等を必ずご覧ください。

大樹生命保険株式会社は三井住友海上火災保険株式会社の取扱代理店として損害保険代理店委託契約を締結しています。

お取り扱いの詳細は、下記までお問い合わせください。

大樹生命保険株式会社 富山支社

〒930-0029 富山市本町 3-21 損保ジャパン富山ビル 5F TEL:076-441-3194

<https://www.taiju-life.co.jp/>

きときと情報168号

C O N T E N T S

特 集 1

2

富山県における中小企業の労働事情について

特 集 2

9

ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金の採択状況と
県内企業の成果事例

経営者に聞く

14

株式会社山崎 代表取締役社長 山崎 睦典 氏

組合紹介

16

協同組合福岡金属工業団地さんよりこんにちは

中央会いんぷおめーしょん

17

第 75 回中小企業団体全国大会に参加しました
パートナーシップ構築推進事業における研修会を開催しました

組合だより

18

富山ネットワーク協同組合
富山県電気工事工業組合
富山個人タクシー協同組合
富山県鍍金工業組合
富山県精密機械工業協同組合

組合運営Q&A

20

員外理事の代表理事就任について

元気印! 青年部・女性部

21

組合女性部・女性経営者等セミナーを開催しました
第 39 回中小企業団体青年部富山県大会を開催しました

ほっと一息

22

「カーボンニュートラル」で低炭素社会に貢献

事務局ペンリレー

22

富山造園業協同組合 原 雅美 氏

トピックス

とやまの美味しいお肉探訪

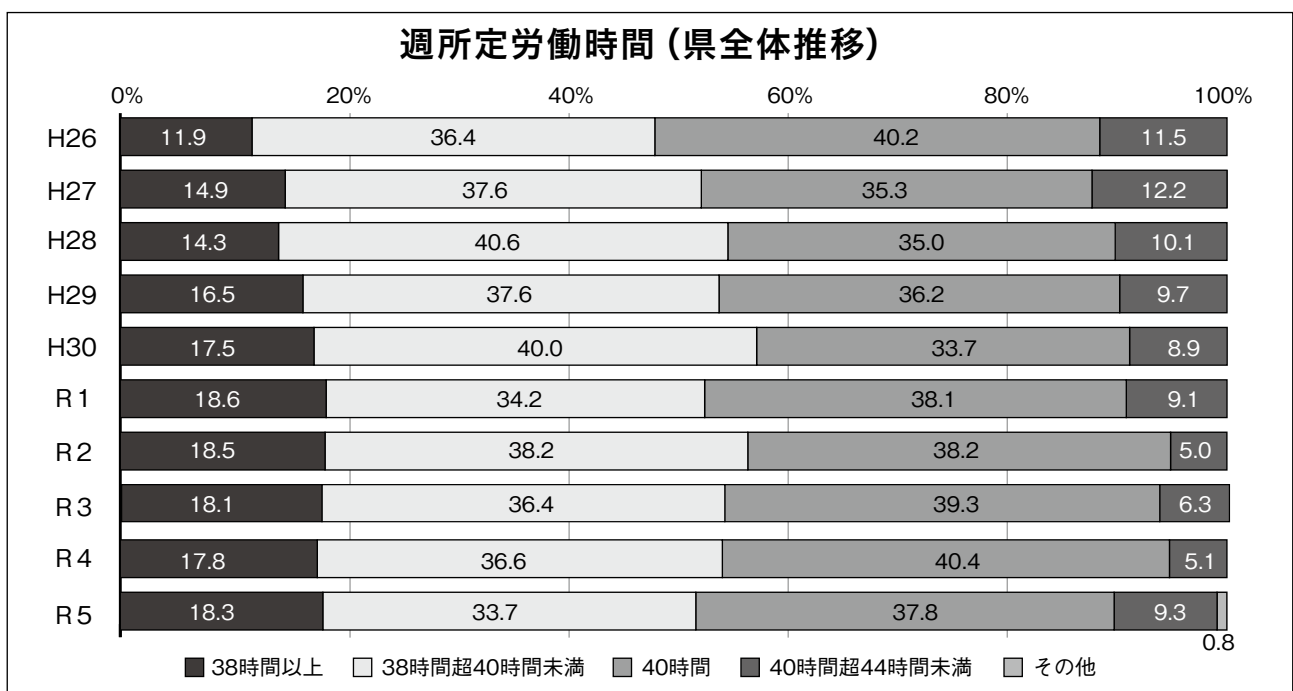
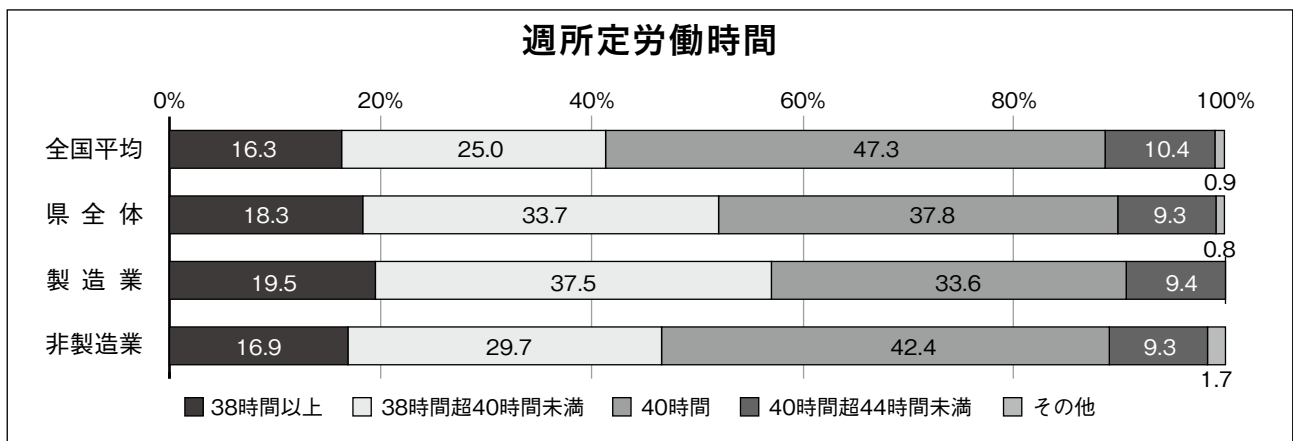
富山県における中小企業の労働事情について

本会では、中小企業の労働事情を的確に把握し、適正な中小企業労働対策の樹立並びに今後の労働支援に資することを目的に、毎年中小企業労働事情実態調査を実施しています。今号では今年度の調査結果の一部を抜粋してご紹介します。

- 調査時点：令和5年7月1日
- 調査対象：県内600事業所（製造業330事業所、非製造業270事業所）
- 調査回答数：有効回答253事業所（回答率42.2%）

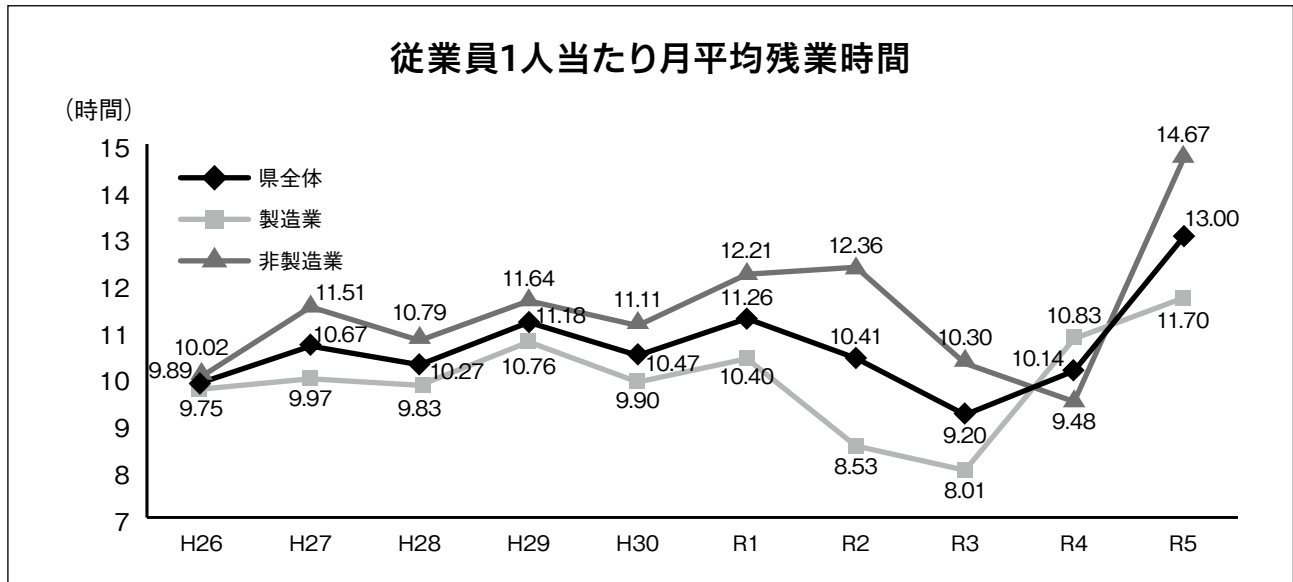
1. 週所定労働時間

週所定労働時間について聞いたところ、県全体では「40時間」とする事業所が37.8%と最も多く、次いで「38時間超40時間未満」が33.7%、「38時間以下」が18.3%となっている。



2. 月平均残業時間

従業員1人当たりの月平均残業時間について聞いたところ、県全体の平均残業時間は13.00時間となっている。業種別の平均残業時間をみると、「運輸業」が26.87時間と最も多く、次いで「化学工業」が23.67時間、「繊維工業」が18.50時間となっている。

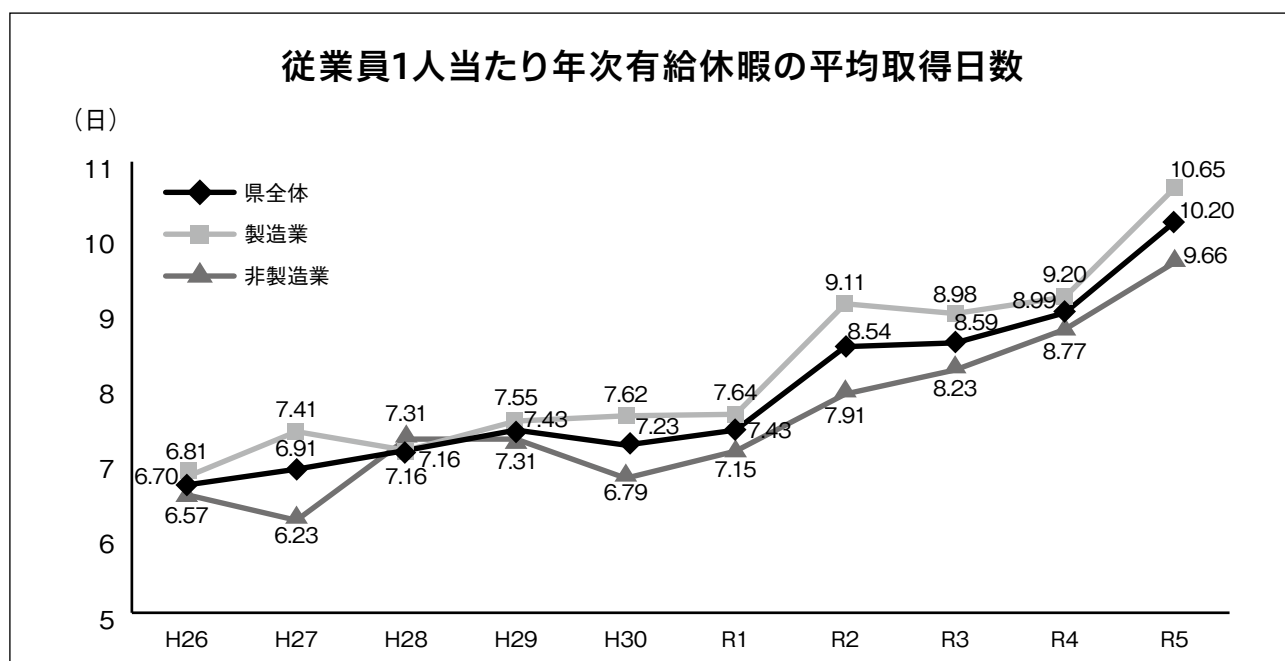


業 種 別	回 答 事業所数	月平均残業時間 (%)						平均値 (時間)
		0時間	10時間 未満	10～20 時間未満	20～30 時間未満	30～50 時間未満	50時間 以上	
全 国	13,508	1.1	39.9	30.5	17.0	9.5	1.9	14.14
富山県 計	201	1.0	46.3	29.4	16.9	4.0	2.5	13.00
製造業 計	113	1.8	46.9	32.7	14.2	2.7	1.8	11.70
食料品	18	—	66.7	16.7	16.7	—	—	9.06
繊維工業	10	—	60.0	20.0	10.0	—	10.0	18.50
木材・木製品	5	—	100.0	—	—	—	—	4.60
印刷・同関連	3	—	100.0	—	—	—	—	5.00
窯業・土石	16	6.3	62.5	31.3	—	—	—	6.56
化学工業	3	—	66.7	—	—	—	33.3	23.67
金属、同製品	36	2.8	25.0	38.9	25.0	8.3	—	14.11
機械器具	12	—	16.7	58.3	25.0	—	—	13.92
その他	10	—	40.0	60.0	—	—	—	8.50
非製造業 計	88	—	45.5	25.0	20.5	5.7	3.4	14.67
情報通信業	0	—	—	—	—	—	—	—
運輸業	23	—	21.7	17.4	34.8	13.0	13.0	26.87
建設業	27	—	59.3	22.2	18.5	—	—	9.52
・総合工事業	7	—	57.1	14.3	28.6	—	—	11.00
・職別工事業	6	—	66.7	16.7	16.7	—	—	9.00
・設備工事業	14	—	57.1	28.6	14.3	—	—	9.00
卸・小売業	26	—	53.8	26.9	15.4	3.8	—	10.50
・卸売業	17	—	47.1	29.4	23.5	—	—	10.47
・小売業	9	—	66.7	22.2	—	11.1	—	10.56
サービス業	12	—	41.7	41.7	8.3	8.3	—	11.92
・対事業所サービス業	8	—	37.5	50.0	—	12.5	—	13.00
・対個人サービス業	4	—	50.0	25.0	25.0	—	—	9.75

3. 年次有給休暇の取得日数

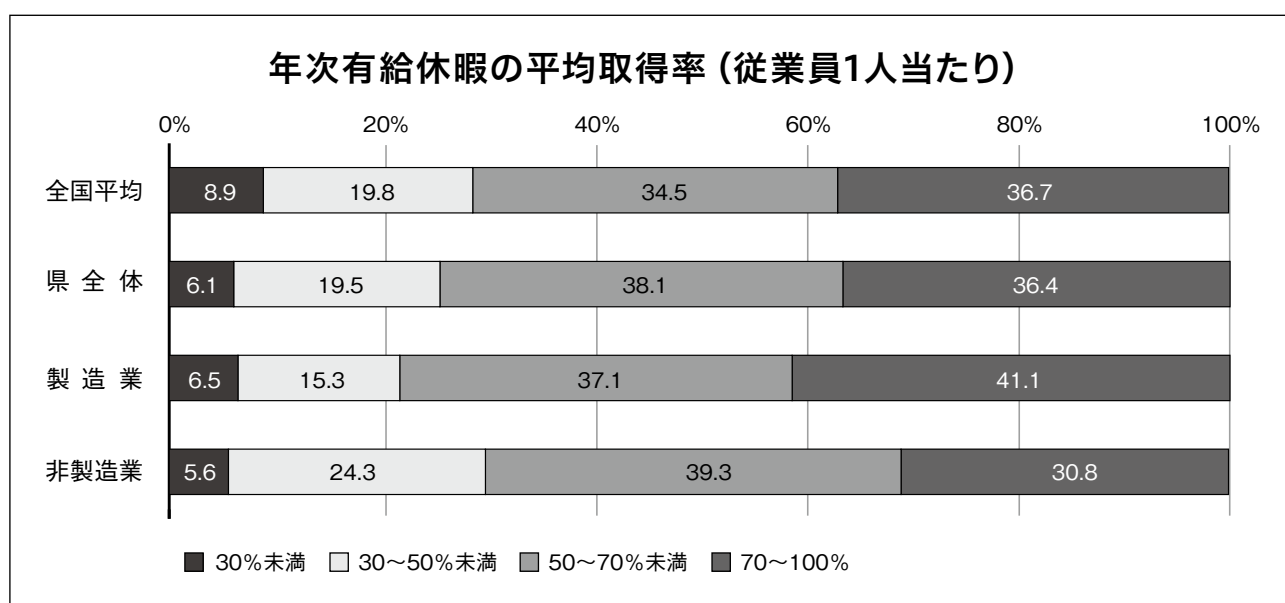
従業員1人当たりの年次有給休暇の取得日数について聞いたところ、県全体の平均は10.20日で、昨年の8.99日から1.21日の増加となっている。

過去10年の推移をみると、令和元年までは大きな変化はみられなかったが、令和元年以降は増加傾向となっている。



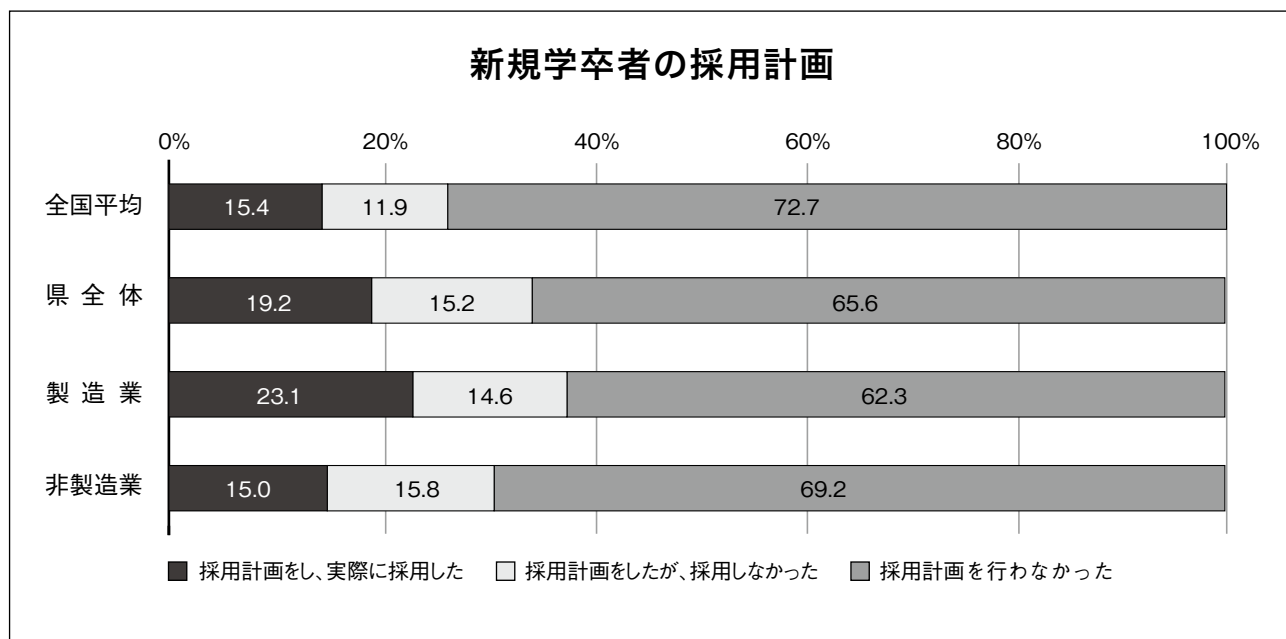
4. 年次有給休暇の取得率

従業員1人当たりの年次有給休暇の取得率は、県全体では「50～70%未満」が38.1%と最も多く、次いで「70～100%」が36.4%、「30～50%未満」が19.5%となっており、平均取得率は61.3%であった。



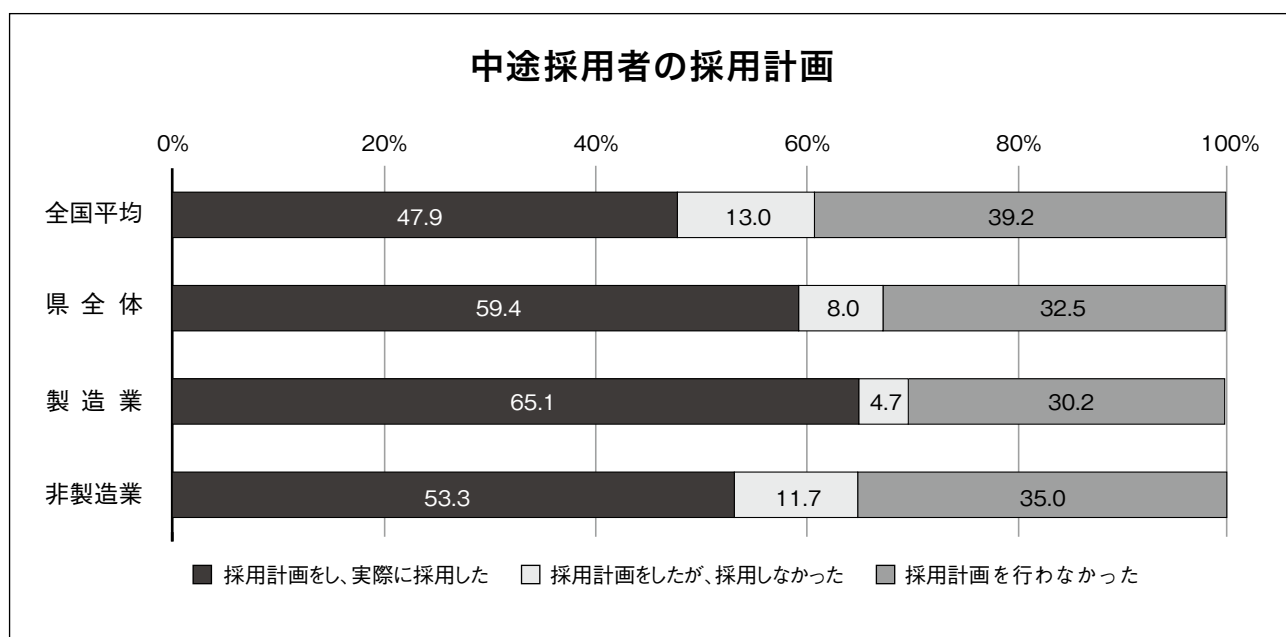
5. 新規学卒者の採用計画

令和5年3月の新規学卒者の採用計画について聞いたところ、県全体では「採用計画を行わなかった」が65.6%と多くなっており、「採用計画をし、実際に採用した」が19.2%、「採用計画をしたが、採用しなかった」が15.2%となっている。業種別にみると、製造業は「採用計画をし、実際に採用した」と回答した事業所が23.1%と非製造業（15.0%）に比べ8.1ポイント多くなっている。



6. 中途採用者の採用計画

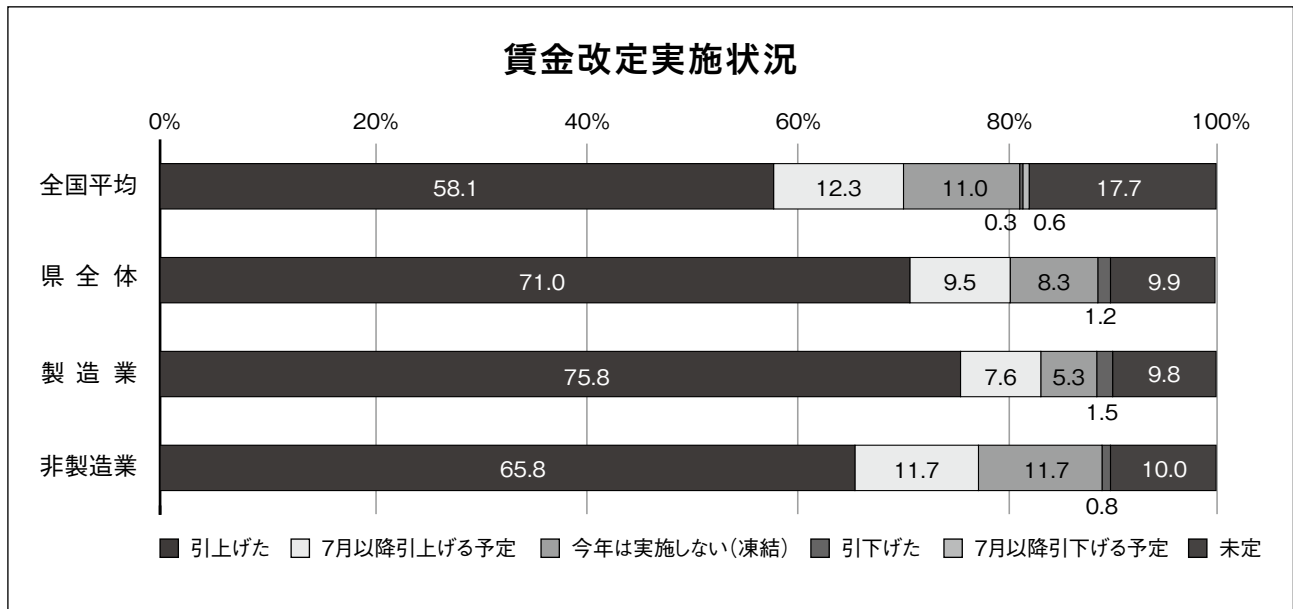
中途採用者の採用計画について聞いたところ、県全体では「採用計画をし、実際に採用した」が59.4%となっており、「採用計画を行わなかった」が32.5%、「採用計画をしたが、採用しなかった」が8.0%となっている。業種別にみると、製造業は「採用計画をし、実際に採用した」と回答した事業所が65.1%と非製造業（53.3%）に比べ11.8ポイント多くなっている。



7. 賃金改定実施状況

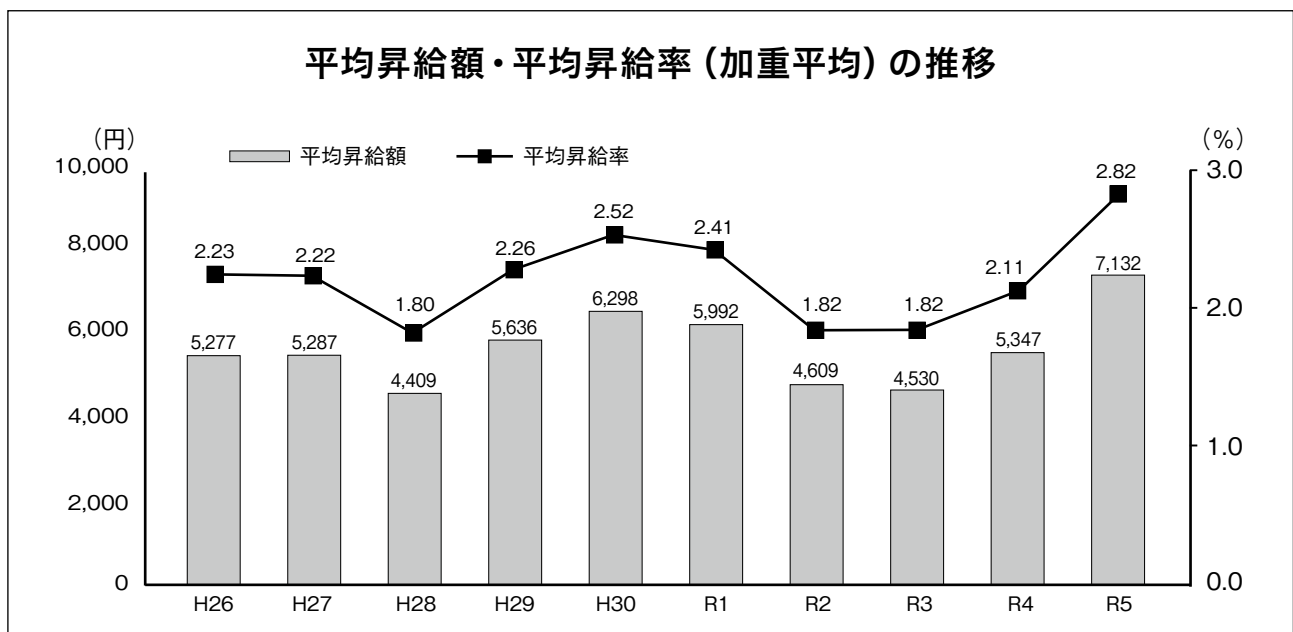
令和5年1月1日から7月1日までの間にどのような賃金改定を実施したかについて聞いたところ、県全体では「上げた」が71.0%、「7月以降引上げる予定」が9.5%と合わせて約8割となっている。

「上げた」と回答した事業所は、全国平均（58.1%）に比べ12.9ポイント多くなっている。



8. 昇給額・昇給率

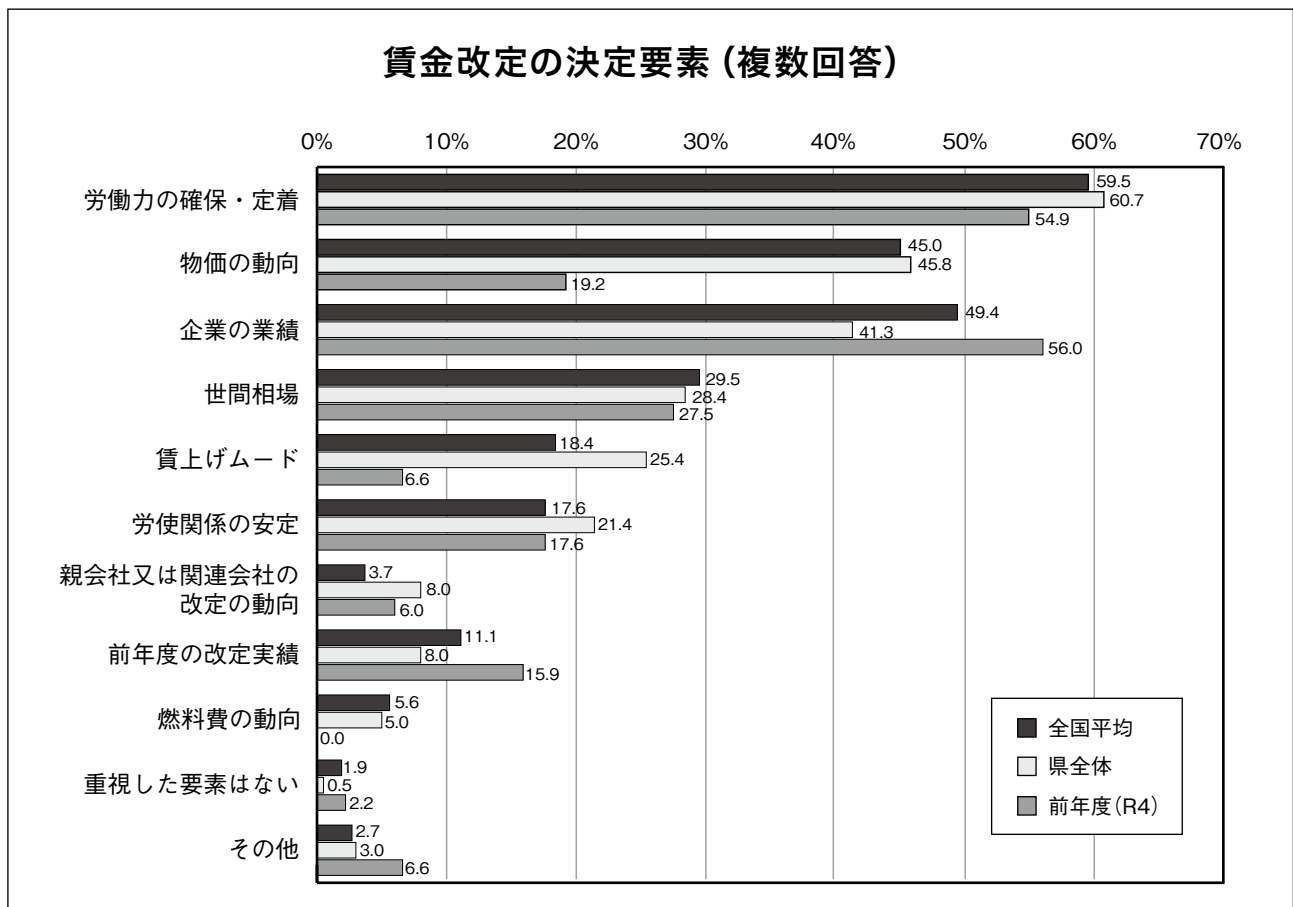
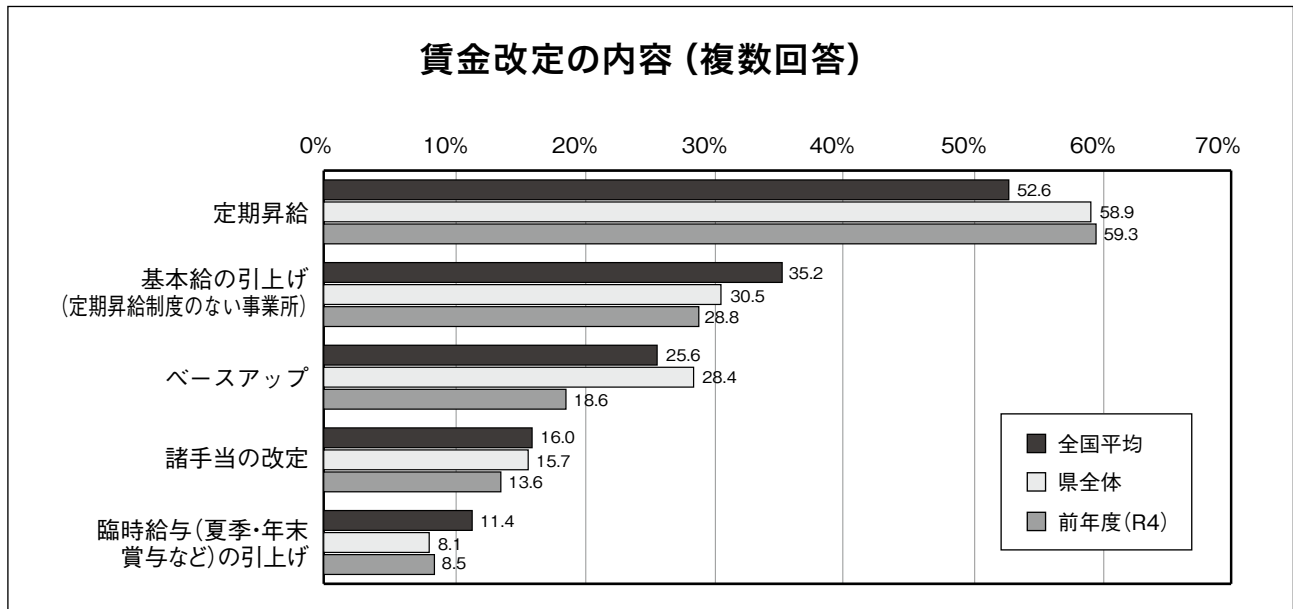
賃金改定について、賃金を「上げた」もしくは「引下げた」と回答した事業所に1人当たりの改定前後の所定内賃金を聞いたところ、賃金の引き上げと引き下げを相殺した平均昇給額（加重平均）は7,132円、平均昇給率（加重平均）で2.82%となり、いずれも前年を上回っている。



9. 賃金改定の内容・決定要素

賃金改定について、賃金を「上げた」もしくは「7月以降引上げる予定」と回答した事業所に賃金改定の内容を聞いたところ、県全体では「定期昇給」が58.9%と最も多く、次いで、「基本給の引上げ（定期昇給制度のない事業所）」が30.5%、「ベースアップ」が28.4%となっている。

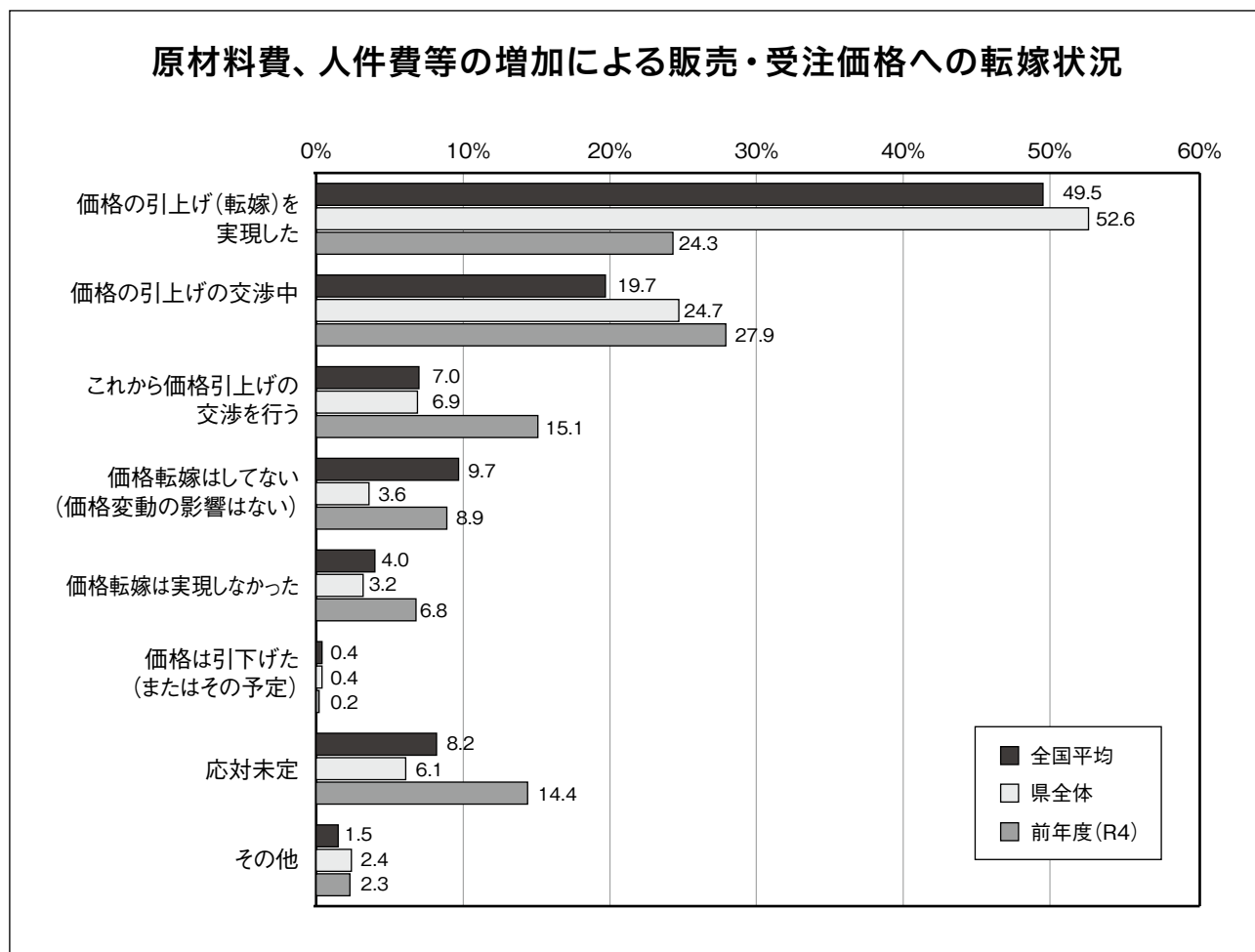
また、賃金改定の決定要素についてみると、県全体では「労働力の確保・定着」が60.7%と最も多く、次いで「物価の動向」が45.8%、「企業の業績」が41.3%となっている。



※前年度(R4)は「燃料費の動向」の項目はなかった。

10. 原材料費、人件費等の増加による販売・受注価格への転嫁状況

原材料費、人件費等の増加による販売・受注価格への転嫁状況について聞いたところ、県全体では「価格の引上げ（転嫁）を実現した」が52.6%と最も多く、次いで、「価格引上げの交渉中」が24.7%、「これから価格引上げの交渉を行う」が6.9%となっている。前年度と比較すると、「価格の引上げ（転嫁）を実現した」と回答した事業所は、前年（24.3%）から28.3ポイント多くなっている。



労働事情実態調査の報告書については、他の調査項目を含めた詳細版、業種別、従業員規模別の集計結果を下記の本会ホームページに掲載する予定です。

また、過去の調査結果についてもこちらからご覧いただけます。

<https://www.chuokai-toyama.or.jp/chu/report-3.html>

ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金の採択状況と県内企業の成果事例

I ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金の採択事業者について

富山県内における今年度（令和5年4月1日以降）のものづくり・商業・サービス生産性向上促進事業の採択事業者は下記のとおりです。

第14次締切 採択事業者（20事業者）（令和5年6月23日発表）

株式会社建技	有限会社南條鐵工所	有限会社佐藤鉄工所
株式会社ユーピーディー	マタアス合同会社	株式会社グレースニット
道路施設株式会社	株式会社ヤハタセイコー	木村産業株式会社
勇晃内燃機工業有限会社	有限会社島岡商店	有限会社ティケー・パネル
北陸熔断株式会社	株式会社昌栄堂	有限会社放生若狭屋
城西ニット有限会社	株式会社速星精工	株式会社センティア
若鶴酒造株式会社	株式会社寺島研磨工業	

第15次締切 採択事業者（35事業者）（令和5年9月29日発表）

株式会社匠技研	株式会社吉田商会	北川製油株式会社
岡本金属株式会社	株式会社カワベ	株式会社経塚組
ケーファクトリー株式会社	株式会社廣昌堂	有限会社三浦写真工芸所
朝日化工株式会社	株式会社笹倉製作所	株式会社Tecken
株式会社宝来	株式会社宏拓	テクノプラス株式会社
有限会社エイキ	株式会社丸米製菓	株式会社三幸
株式会社A・ウオッシュ	有限会社高畑木工	株式会社ハイテック
株式会社北陸工営	株式会社酒井鉄工	小矢部繊維工業株式会社
かすや あいけん びょういん	株式会社野尻塗装店	ホクリク工房株式会社
富山鋼機株式会社	キュアコード株式会社	株式会社エスピーケー・トヤマ
株式会社セイアグリーシステム	株式会社奥村商事	横山冷菓株式会社
三晶エムイーシー株式会社		

17次締切の公募要領は現在準備中（令和5年11月15日現在）のため、準備が整い次第ものづくり補助事業公式ホームページ「ものづくり補助金総合サイト」に掲載される予定です。

ものづくり補助事業公式ホームページ「ものづくり補助金総合サイト」

HP <https://portal.monodukuri-hojo.jp/index.html>



II ものづくり補助金 県内企業の成果事例

中小企業庁では平成24年度補正事業から令和4年度補正事業において、中小企業・小規模事業者が設備投資等に活用できる「ものづくり補助金」を実施しており、富山県内ではのべ約1,550の事業者が事業に取り組まれました。

今回は「令和元年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助事業」に取り組まれた事業者のうち、2事業者の取組みをご紹介します。

- 設備導入で生産能力アップ
- 作業標準化で品質向上
- 地元素材を生かした新商品開発

- ・商圏の拡大
- ・ブランド力の強化
- ・サービス提供プロセスの改善

オリジナルプリンを氷見の新名物に 作業標準化で生産能力と品質高める



手づくり、出来たての美味しさが味わえる「ひみぶりん」

会社の概要

当社は平成27（2015）年、料理人を目指していた池田匠社長が、事業承継という形で民宿を引き継ぎ「天然温泉浜辺の宿 あさひや」を開業した。氷見島尾海岸を望むロケーション、地域食材を生かした割烹料理、天然温泉などの多彩な魅力を備え、全国的に人気の宿に成長。コロナ禍を機に改装・設備投資を強化し、全室リニューアルを行ったほか、露天風呂付の離れ「別邸 月-tsuki」を新たにオープンするなど事業を拡大してきた。

また、宿のウエルカムスイーツとして提供していた手作りプリンからヒントを得て、氷見の新名物を作りたいとオリジナルプリン開発に着手。全国各地のご当地プリンの開発・監修を手掛ける「プルシック」のオーナーシェフ・所浩史氏に監修を依頼し、氷見をイメージしてプリンの上に青いラムネジュレ、その上に氷砂糖をのせて味わう「氷ぶりん」などを開発した。令和4（2022）年6月に氷見漁港外市場「ひみ番屋街」内にプリン専門店「ひみぶりん」をオープン。高級天然バニラビーンズや富山県産牛乳など素材にこだわった手作りの味で、



「あさひや」 離れの露天風呂

観光客や地元民の人気を集めている。

補助金事業の内容

当社のプリン手作り、出来たての美味しさが特徴で、原材料混合から焼成、冷却凝固、ジュレ製造まで小売店舗内で行う。試作段階の試算では、目標販売量である1日400～500個を生産するために総生産時間175時間という膨大な時間が必要となり、手作業のみの生産では必要販売数量を確保できないことが課題となっていた。特に火の通りを何度も確認する必要があるオーブンでの生地焼成や、その後の余熱取りに時間がかかっていた。

また、焼き上がりの美味しさをキープするために冷凍保存を計画していたが、従来使用していた冷凍庫では冷却に時間がかかって氷の結晶が大きくなり、生地が破損して品質が低下することも問題だった。

補助金の採択を受けて、最新鋭のスチームコンベクションオーブンを導入。これまでのオーブンによる焼成を、スチームコンベクションオーブンによる飽和水蒸気を用いた自動焼成へと移行した。そのほか、焼き上がったプリン生地が氷の結晶によって破損しないように素早く冷却するため、最新式の急速冷凍機を導入した。



補助金で導入したスチームコンベクションオーブン



急速冷凍機で余熱取り、冷蔵凝固、ジュレ製造を自動化

創 業	平成27年10月1日
代 表	池田 匠
所 在 地	氷見市島尾2195
TEL/FAX	TEL: 0766-91-2045
U R L	https://www.himi-asahiya.com/
資 本 金	300万円
従業員数	14人
取扱製品	プリン ほか民宿旅館事業

補助金事業の成果

スチームコンベクションオーブンを導入し、従来の赤外線による焼成ではなく熱風と蒸気で焼成することにより、当社が理想とするなめらかなプリン生地を実現した。また、設定した焼成条件で自動化することにより、熟練度によらず誰でもプリン生地製作が可能になった。

最新鋭の急速冷凍機によって、氷の結晶でプリン生地を破損することなく冷凍保存できるようになり、品質劣化を防ぐことができた。また、これまで時間がかかっていた余熱取りに加えて冷蔵凝固、ジュレ製造までをタイマー設定による自動化で1工程に集約し、生産時間を短縮した。

これらの取り組みにより、1ロット40個製造の場合に必要な作業時間を、従来の1050分から220分に短縮することに成功した。最小人員で、

出来たての美味しさを提供することができるようになり、1日1200個を売り上げる人気スイーツに成長した。

今後の展望

現在は主力の「氷プリン」のほか、「なめらかプリン」、能登半島の塩を使った「塩プリン」「塩キャラメルプリン」を常時販売している。これらに加え、氷見産のいちじくや砺波産のシャインマスカットなど富山の地元産品を使って季節ごとの期間限定商品も意欲的に開発、提供している。

ひみ番屋街の店舗での販売のほか、全国の有名プリン店が集うイベント「プリンアワード」など県内外の催事にも出店。オンラインショップでの販売も行い、オリジナルプリンを通して氷見の魅力を全国に発信している。「氷見に足を運びたくなる、ここだけにしかない店」を目指し、地域活性化への貢献を図る。

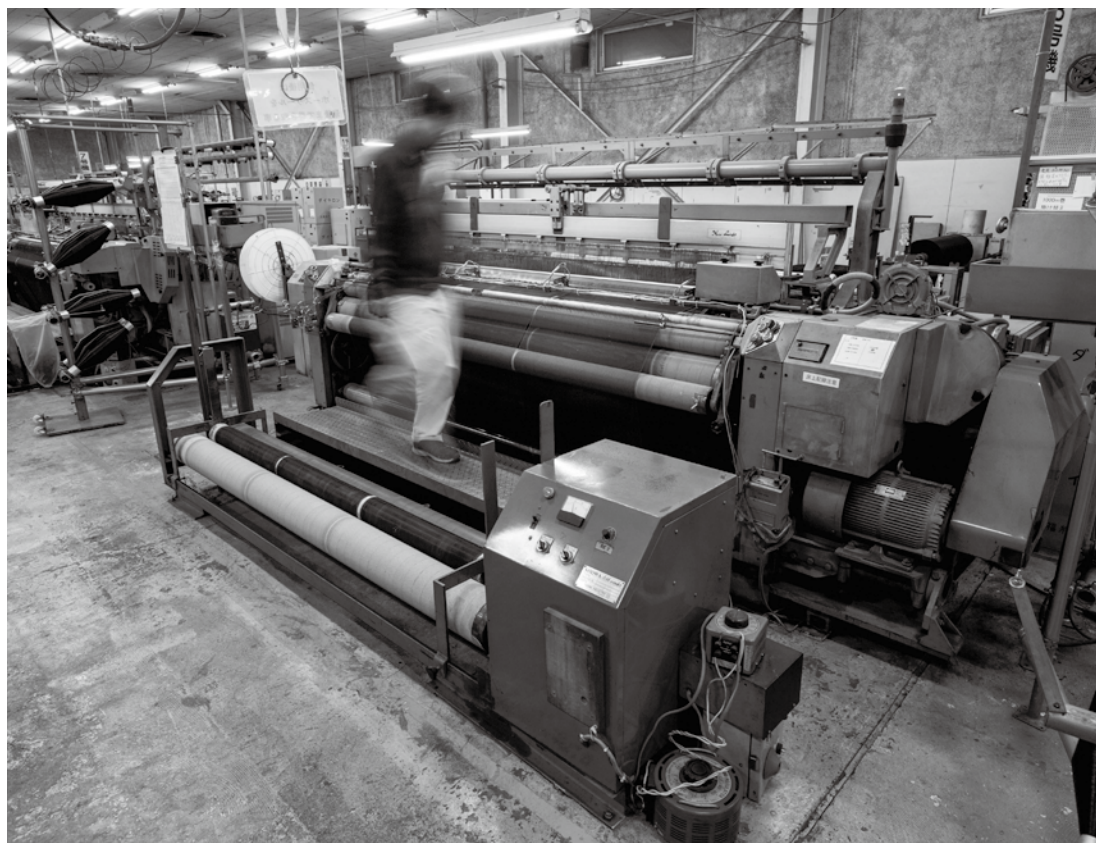


こだわりの素材でプリン生地を作り上げる

- 自社ECの基盤が確立された
- 業務効率が向上
- EC全体の売上がアップ

- ・商圏の拡大
- ・ブランド力の強化
- ・IT利用活用

ユーザーファーストのECサイトに 受注システムを刷新し業務も効率化



防虫網の生産工場



原料糸を整経、製織する装置

会社の概要

当社は、富山県内唯一の防虫網製造会社として、昭和49（1974）年に創業した。砺波市内の工場で50年にわたり防虫網を主力として生産・販売するほか、平成16（2004）年には中国・大連に支社を開設し、建築資材や商業施設で使われるアルミ形材、かご車などの輸入販売を展開。監視カメラのハウジング（筐体）の製造・販売や会員制複合施設の運営も手掛け、業容を広げている。

主力の防虫網は製織から検反（検査）、梱包、出荷までを一貫して自

社工場で行っている。技術面では最新設備と長年蓄積してきたノウハウにより、メッシュ数の高い加工を得意としている。メッシュ数が高くなるほど網目が細かく、防虫網は18～20メッシュが一般的とされるなかで、当社ヒット商品の「快適ネット」はメッシュ数33を採用。特殊加工により外からは見えにくくしたものや、手入れが簡単なネットなど、幅広い商品構成を展開して市場で高い評価を得ている。

補助金事業の内容

当社の防虫網部門は長年、法人向

けをメインとして網戸専業、サッシの各メーカー、建材問屋などに供給している。メーカーや市場のニーズに応じながら、売上を伸ばしてきた。一貫生産体制で収益性も高く、これまでの実績も生かせることから、新たに小規模事業者・個人向け市場に参入。平成28年に自社ECサイトを開設し、翌29年には大手ECモールにも出店した。

当初は閲覧回数も少なく注文も1日5件ほどにとどまっていたが、次第に増加。しかし、自社開発のシステムでは手入力が多く、受注後のフロー体制が整っていないことがネックとなり、件数が増えるほど担当者の負担が増え、担当者不在時は対応が困難になるなど問題が生じた。また、防虫網は関連部品を合わせると約300品目あり、初めてのユーザーが選択に迷うケースも多かった。補助金の採択を受け、ユーザー・社員ともに使いやすいシステムへ刷新を図った。

補助金事業の成果

まず当社WEBサイトのデザインを一新。トップページに事業者向けと個人向けの2つの入り口を設置して、商品情報などもそれぞれに分けて掲載することで、よりの確なアプローチが可能になった。

個人向けでは、防虫網を取り付ける部屋や気になる点を尋ねる簡単な

会社データ



創業 昭和49年3月15日
 代表 吉田 直人
 所在地 砺波市東石丸276
 TEL 0763-32-1036 / 0763-33-2217
 URL <https://www.sankei-n.com/>
 資本金 1,000万円
 従業員数 34人
 取扱製品 防虫網、モヘア、商業施設部品、アルミ形材、ネットワークカメラハウジング、会員制複合施設運営

アンケートページを新設。ユーザーの回答をAIが解析して、ニーズに適した製品を数点提示する仕組みで、防虫網の知識がなくても購入しやすくした。

受注後は購入者情報が顧客台帳に自動入力されるほか、見積書、納品書、サポートメールが自動作成される。出荷までの手入力の手間が省かれて、誤入力もなくなり、業務の大幅な効率化につながった。在庫管理システムにもデータが転送され、EC向けの在庫と一括管理できるようになり、出荷までの流れがよりスムーズになった。

また、WEB管理業務も改善されて、特定の社員に偏ることなく、多くの社員が携われるようになった。

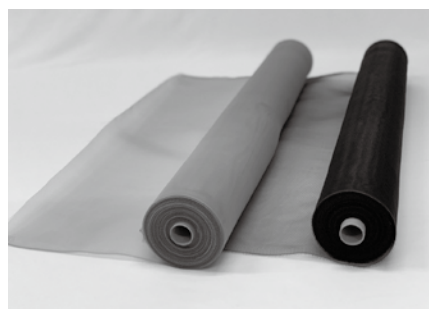
今後の展望

本事業では顧客アンケートページを開設するなど、閲覧ユーザー目線で使いやすくしたWEBサイトシステムを構築。自社ECだけでなく、

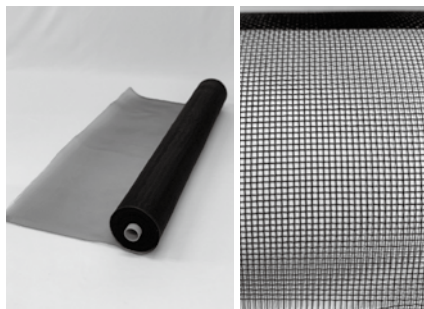
ECモールを含めたEC全体の販売体制が強化された。アンケート結果と購入者情報をAIが自動解析した販売傾向などを、今後の品質向上や新商品開発に役立てていく。

業務の効率化が進み、各作業時間が短縮されたことは、従業員の負担やストレスの軽減といった働きやすさにつながった。生産性も向上したことから、利益増加による賃金上昇も見込んでいる。

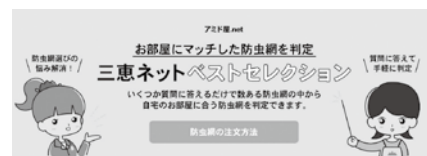
新型コロナ禍では感染防止対策として、窓を開ける換気が重要視され、住宅設備の中でも端役的存在だった網戸の注目度が高まった。また、ステイホームなどもあり、DIYで防虫網の張り替えや補修を試みる個人ユーザーは今後も増えると予想される。防虫網の業界では、商品をユーザーが望む単位で購入できるECは珍しく、WEB販売網を最大限に活用して、高品質な製品を全国各地へ供給していく。



完成した防虫網ロール



メッシュ数が高くなるほど網目が細かい



利用者の環境に合った防虫網を判定できるECショップ「三恵ネットベストセクション」のトップ画像

和の心宿る木製建具を作り続けて80年 時代の荒波を提案力と人間力で乗り切る

株式会社山崎は1943（昭和18）年の創業以来、木製建具や造作家具の設計、製造・販売を手掛けています。培ってきた技術が強みに、赤坂迎賓館や護国八幡宮本殿などの重要文化財の修復に携わってきました。近年はデザイン性と機能性を兼ね備えた「動く×建具」が全国のホテルや商業施設などに採用され、実績を積んでいます。代表取締役社長の山崎睦典氏にこれからの目標と、理事長を務める富山県建具協同組合での取り組みについて伺いました。

株式会社山崎

代表取締役社長 山崎 睦典 氏

祖父が創業、3代目を継ぐ

創業から80年、これまでの歩みをお聞かせください。

当社は1943（昭和18）年に祖父が山崎建具店を創業し、木製建具を製造・販売していました。当時の建物は外部の窓や扉がすべて木製。室内の襖や障子、衝立などと併せて建具の比重が高く、弟子が何人もいたと聞いています。2代目の父は建設会社や住宅メーカーからも受注して仕事の幅を広げて、木製だけでなくアルミサッシの販売、取り付けも始めました。

私は1990（平成2）年に入社し、2008年に3代目を継ぎました。高校時代は野球に打ち込み、果たせなかった甲子園の夢を監督になってかなえようと教

師を目指したこともあります。ところが、大阪にある地元アルミメーカーの販売子会社に就職が決まっていました。つてのないうところで販売目標を達成するのは容易ではなく、ぼろくそに言われながらも、負けたままではいられない、と部品交換からコツコツ積み上げて得意先を開拓。5年勤めて最後は成績トップを達成しました。住宅やビルの幅広い製品・部品を取り扱った経験は、家業に入ってから也大いに役立ちました。

「動く×建具」で全国へ

「動く×建具」の開発や自社ブランドを立ち上げた背景にはどのようなことがあったのでしょうか？

アルミサッシの普及や住宅の和室離れで木製建具の需要が減少し、平成に入ると大手メーカーの規格品が主流となり、同

業者が大きく減少していく厳しい時代になりました。当社では、表計算ソフトを用いた見積書等のデータ化で業務の効率化を進めたり、建具の製図化により提案力を高めたりしながら、オリジナル製品を扱う設計事務所とのつながりを開拓していきました。

培ってきた技術を生かして、スライディングウォールをはじめとする建具の新製品開発に力を注ぎ、若手を中心に機能性とデザイン性を兼ね備えた高品質の製品づくりを目指しました。「動く×建具」も若手の女性社員が名づけました。間取りを用途に応じて変更できるようにする可動間仕切りは、近年、住宅や店舗、寺社仏閣、ホテル、商業施設などに幅広く採用されています。特にリノベーションが多い東京や大阪などでの需要が



東京都知事賞を受賞したガラス引き戸



自社ブランド「TO」のショールーム



社屋

やまざき・むつのり

1964（昭和39）年5月1日、小矢部市生まれ。1985年、東京都立商科短期大学卒業後、大阪にある三協アルミニウム工業株式会社（現三協立山株式会社）の販売会社を経て、1990（平成2）年、有限会社山崎タテグに入社。1996年、改組し名称を株式会社山崎に変更、専務取締役。2008年、代表取締役社長に就任。2019（令和元）年、富山県建具組合理事長に就任、現在に至る。



高く、最近では大型の商業施設や高級ホテルに関わることも増えています。北海道や沖縄からの受注にも、基本、現地採寸から施工までワンストップで対応。2010（平成22）年には自社建具ブランド「TO」を立ち上げて、ショールームを開設しました。新しい発想で建具の可能性を広げていきたいと考えています。

建具屋の建具屋になる

社長としての15年を振り返り、現在はどのようなことに注力されていますか？

社長に就いて15年、意識して取り組んできたことの一つが働く環境の改善です。実は最初の5年ほどは社員の意識改革が思うように進まず、厳しく当たることもありました。外部コンサルタントを通して、経営者の自分こそが変わるべきと気づかされました。以来、指示の出し方や段取りを見直して戻り作業をなくし、工場の整理整頓、社員の多能工化を進めたことで、数年後には残業や休日出勤をしなくとも、それなりの売上や利益を確保できるまでになりました。今、目指しているのは「建具屋の建具屋」になることです。最新鋭の加工機を積極的に導入し、最近では高さ3～4mの大型

建具用の設備投資を進めています。この設備環境を生かして、自社の建具だけでなく、同業者の加工依頼にも対応できる体制をつくり、地元や北陸の受注を増やして業界の底上げにつなげていきたいと考えています。

引き戸は日本固有の扉であり、「引く」ところに日本の文化や和の心を感じます。時代の変化を受け入れて柔軟に変わりながらも、建具の伝統や技術を守り後世に伝えていくのが役目と思っています。修業中の長男も1～2年後には戻る予定で、私もあと10年は突っ走る覚悟です。

富山を建具の産地に

理事長を務める富山県建具協同組合での取り組みについてお聞かせください。

1961（昭和36）年に設立されて60年余り。最盛期に1,000を数えた組合員は現在35人ですが、一人ひとりが技術を磨き、安定して建具や木製品を製作していくためのサポート体制づくりに力を注いでいます。

組合では2021（令和3）年にホームページを開設しました。組合員の分布地図を載せて、扉の補修や襖・障子の張り替えなどで困った方が、お近くの建具屋を見つけやすくしています。分布

地図は組合員にとっても有用で、例えば、地元から離れた工事先でも何かあったときに最寄りの組合員を頼ることができれば安心です。横のつながりをつくるきっかけにもなっています。

現在、いち組合員ではこなせないような大量の依頼があったときにも断らずに受注して、複数の組合員で分けて製作していくシステムを構築しているところです。日本各地の建具の産地が消えていくなかでも、建具の仕事は欠かせないものであり、組合員それぞれの受注を増やしながら富山を建具の産地のようになしていきたいという思いがあります。

適当だけ負けられないゴルフ

休日はどうのように過ごしていますか？

富山にいる限りは毎日出勤して仕事をしていますが、ゴルフがいいリフレッシュになっています。運動になりますし、プレー後の皆さんとワイワイお酒を飲むのも楽しい。ゴルフの上達については、真剣になり過ぎないように、意識してセーブしている面もあります。でも基本的に負けず嫌いですから。適当にやるんだけど負けられないゴルフです。

協同組合福岡金属工業団地さんよりこんにちは

昭和30年代後半以降の高度経済成長期、中小企業の集団化による工場団地等が全国各地に造成され、生産性の向上や公害問題の解消が図られ、飛躍的な発展を遂げました。集団化支援制度を活用した工場団地等は約800件にのぼり、半世紀以上が経過した現在でも地域産業の活性化に貢献しています。

今回は、高岡市福岡町に立地する協同組合福岡金属工業団地さんを紹介します。

◆組合の沿革

昭和46年、技術革新の急激な進展や賃金物価等の高騰、騒音・汚水等による公害発生など諸問題の解決に向けて、西砺波郡福岡町（現：高岡市福岡町）にて工場団地造成を目的とした組合設立準備会が発足。昭和48年3月、高岡市内の機械金属製品製造業者13社が集結し、組合を設立しました。

組合設立後、組合員複数社の倒産により高度化資金の返済に支障をきたす事態に陥りましたが、組合員が一致団結して危機を乗り越え、組合設立15周年と同時に高度化資金の償還を果たしました。

◆各種事業実施による支援体制の充実

組合では、団地内の道路・用水路の整備や給排水設備の管理を通じて組合員の生産活動を支えるとともに、組合員企業の役員・従業員を対象とした各種研修会開催による知識の向上、切手・収入印紙販売や労働保険事務組合業務の実施による組合員の事務負担軽減、納涼祭・新年会開催による福利厚生の充実に努めています。

近年では、組合パンフレットの作成やホームページ・Facebookの活用を通じて、組合事業の実施状況や組合員の各種情報を積極的に公開するなど、組合員の販路拡大、信頼性向上にも貢献しています。



納涼祭の様子

◆危機管理意識の醸成に向けて

団地の北部には小矢部川が流れ、南部には支流の黒石川が隣接していることから、雨量が多い場合には工場が浸水する恐れがあります。こうしたことから、組合員有志3社と組合事務局が集い、防災・減災対策を取りまとめた「連携事業継続力強化計画」を策定。今年度は組合員全社が連携し、災害対応力の強化に向けた取り組みを行っています。

また、定期的に開催している合同避難訓練の際は消火訓練に加え、浸水被害に備え土嚢の製作に取り組んでおり、組合及び組合員企業で備蓄するなど対策を図っています。



土嚢作りを学ぶ組合員

◆今後の取り組み

高岡市が進める脱炭素（カーボンニュートラル）の実現に向けた取り組みについて、組合が先行地域となりました。今後も組合員一丸となって各種事業を推進し、組合員企業の発展及び地域産業活性化に努めていきたいと考えています。

組合概要

組合名称 協同組合福岡金属工業団地
設 立 昭和48年3月6日
所 在 地 高岡市福岡町荒屋敷522番地
理 事 長 梶川 豊司
組合員数 13名
TEL 0766-64-3888 FAX 0766-54-6669

第75回中小企業団体全国大会に参加しました

10月11日（水）、宮城県仙台市の仙台国際センター展示棟において、「第75回中小企業団体全国大会」（全国中央会、宮城県中央会主催）が開催され、全国から中小企業団体の代表者ら約2,000名が参集し、富山県からは12名が出席しました。

大会では、佐藤勘三郎・宮城県中央会会長が議長に選任され議事を進行し、中小企業・小規模事業者等の危機的状況の克服、成長促進支援等の拡充、中小企業・小規模事業者の実態を踏まえた労働・雇用・社会保険料対策の推進、中小企業・小規模事業者の積極的な事業活動を支える環境整備など13項目を決議した他、優良組合、組合功労者等の表彰が行われました。

<表彰受彰の方々（富山県関係）>

全国中小企業団体中央会会長表彰

【組合功労者】

・河合 幸弘 氏

（富山県電機商業組合 理事長）

・福井 智一 氏

（富山県パン・学校給食米飯協同組合 前理事長）

【中央会優秀専従者】

・藤井 弘恵 氏（本会工業支援課 主事）

なお、第76回大会は、来年に福井県において開催される予定です。



全国大会会場の様子

パートナーシップ構築推進事業における研修会を開催しました

エネルギーや原材料価格の高騰が続く中、適切な価格転嫁によるサプライチェーン全体の共存共栄が求められています。

本会では、中小企業・小規模事業者における公正・適正な取引及び適正な価格転嫁の実現に向けた機運醸成を図るため「パートナーシップ構築推進事業」を実施しており、取引における価格交渉力の強化や、取引先から選ばれる企業になるための企業価値の高め方等に関する研修会を開催しております。

令和5年10月31日（火）、高岡商工ビル（高岡市）において、富山県鋳物工業協同組合を対象とした研修会を開催しました。

講師に（株）迅技術経営代表取締役 西井 克己氏をお招きし「適正な価格転嫁に向けた交渉力強化への取り組み」をテーマに、会社の利益を上げるための優先順位や原価計算の手法について説明が行われました。

なお、富山県自動車車体整備協同組合、富山県金型協同組合でも同様の研修会を開催いたしました。



研修会の様子

創立30周年記念祝賀会を開催しました

富山ネットワーク協同組合

富山ネットワーク協同組合は、令和5年9月16日（土）ホテルグランテラス富山にて、創立30周年記念祝賀会を開催しました。

祝賀会では、ご来賓、組合員あわせて52名が参加され、これまでの組合事業活動の30年を振り返り、激変する経済・社会環境に対応していくため、組合員同士の更なる結束を誓い合いました。翌17日（日）には呉羽カントリークラブにてゴルフコンペを開催し、親睦をはかりました。

同組合は、県内の運送業者19名で組織されており、平成5年に設立以来、備品等の共同購買事業、共同受注・共同配車事業を中心に事業展開しています。共同受注・共同配車事業では、求荷・求車システムを活用しており、車両や荷物の状況をリアルタイムで把握することで輸送効率の向上につなげています。



「会って、学んで、交わって。取り戻そう でんき元気！」 会員交流大会を開催しました

富山県電気工事工業組合

富山県電気工事工業組合は、電気工事業の中小企業者の改善発達を図るための必要な事業を行い、公正な経済的活動の機会を確保することを目的とし、組織の強化と組合事業の活性化に取り組んでいます。

令和5年9月30日（土）、「会って、学んで、交わって。取り戻そう でんき元気！」をスローガンに、県下組合員および組合関係者約180名が一堂に会し、富山市のホテルグランテラス富山において、会員交流大会を開催しました。大会では、総務省自治財政局財政課長の新田一郎氏を講師としてお招きし、「デジタル実装を通じた地域の未来」をテーマに、電気工事業界の将来に深い関わりをもつ5G通信についての研修会を行い、その後、長いコロナ下において失われた交流の機会を再び取り戻すべく、組合顧問に就任していただいている国会議員、県議会議員の皆様ならびに県下組合員による交流パーティーを開催しました。



研修会の様子

インボイスに対応しました

富山個人タクシー協同組合

富山個人タクシー協同組合は、本年10月からのインボイス制度開始に伴い、組合員74名全員が課税事業者となりました。個人タクシー事業者の乗客は、6～7割を法人が占めており、インボイスを発行できなければ、利用客が減少してしまう可能性があると考えました。組合では、10月1日(日)からインボイス対応の領収書を発行できるようにシステムを変更するとともに、タクシーの車体と座席に「インボイスOK!」と記されたステッカーを貼付しています。

燃料の価格が高騰している中でのインボイス制度開始となり、事業者の負担は増えますが、一方で新型コロナウイルスの影響がようやく落ち着きを見せ、富山県を訪れる観光客やビジネス客も増え、人の流れが戻りつつあります。組合ではインボイスが発行できることを積極的にアピールし、利用客の増加に繋げていきたいと考えています。



車内に貼られたステッカー

創立50周年記念式典・講演会、祝賀懇親会を開催しました

富山県鍍金工業組合

富山県鍍金工業組合は、令和5年10月13日(金) ANAクラウンプラザホテル富山にて、創立50周年記念式典・講演会、祝賀懇親会を開催しました。

愛知、岐阜、三重、石川、福井、富山の鍍金業組合により、輪番制で例年開催している東海・北陸ブロック会議も併催されたことから、記念式典では県内外から77名が参加され、永きにわたり業界・同組合の発展にご尽力された3名の功労者が表彰されました。

式典終了後は、筑波大学名誉教授／島根県立大学客員教授 中村 逸郎 氏を講師に迎え、「ロシアが引き起こす世界経済の構造変化―日露貿易の実態について」と題し記念講演会を開催し、タイムリーかつ関心の高い内容に参加者は熱心に耳を傾けていました。

祝賀懇親会はシンガーソングライター・タレントとしてご活躍の高原兄さんによる余興もあり、盛大に開催されました。翌14日(土)には、呉羽カントリークラブにて親睦ゴルフ大会が開催され、参加者は交流を深めました。

昭和23年に同組合の前身となる「富山県鍍金工業会」を設立し活動を行ってきましたが、昭和40年代に入り著しく変化する経営環境に対応していくため、積極的な事業展開を目指し、昭和48年に「富山県鍍金工業組合」として法人化し50周年を迎えました。



記念式典の様子

創立70周年記念祝賀会を開催しました

富山県精密機械工業協同組合

令和5年10月23日（月）、ANAクラウンプラザホテル富山（富山市）にて富山県精密機械工業協同組合創立70周年記念祝賀会を開催しました。

祝賀会には組合員のほか、㈱不二越、商工組合中央金庫をはじめご来賓を含め約90人が参加。これまでの組合の歩みを振り返るとともに、ものづくりの技術と心構えを次代へ受け継ぐとともに、これまで以上に組合員間の結束力を高めていくことを誓いました。

同組合は昭和53年、金融の円滑化を目的とした「不二越下請工場協同組合」として発足し、昭和58年に現名称に改称。現在は、ベアリング部品、機械部品、自動車部品製造業など40社が所属しており、教育情報事業や福利厚生事業を実施しています。



斉藤理事長 あいさつ



記念祝賀会の様子

組合Q&A

このコーナーでは、日ごろ中央会へ多く寄せられる事業協同組合等の運営に関する質問について回答とともに紹介します。

【 員外理事の代表理事就任について 】

事業協同組合において、員外の理事が代表理事になれるか？

員外理事は、組合事業に専念できる者を得るために設けられた制度であることから、代表理事になることは差し支えない。しかしながら組合は組合員のための組織であることを考慮すると組合の長は組合員のうちから選任されることが好ましい。

理事長、専務理事がともに員外である場合はどうか？

理事長、専務理事がともに員外理事であることは一般的には避けるべきであるが、特別の事情でそれが組織運営に却ってプラスとなるのであれば、一概には排除すべきことではないと考える。

組合女性部・女性経営者等セミナーを開催しました

富山県中小企業レディース連絡会

富山県中小企業レディース連絡会は、9月25日（月）、楽土庵（砺波市）において、組合女性部・女性経営者等セミナーを開催しました。

楽土庵は、築約120年の古民家をリノベーションした宿泊施設とイタリアンレストランを併設するアートホテルです。セミナーでは、楽土庵を運営する株式会社水と匠の代表取締役を務める林口砂里氏に「旅する人と地域を再生する『リジェネラティブ・ツーリズム』」をテーマに講演していただきました。同社は、人と自然がともに作り上げてきた土地の品格を表す砺波地方に伝わる言葉「土徳」を伝えることをミッションとして活動しており、宿泊施設とレストランを提供するだけでなく、ツアー事業やオリジナル商品の開発・販売等も行っています。セミナーには組合女性部の会員18名が参加し、講演後は林口氏の案内により、楽土庵の客室やラウンジ等の視察見学を行いました。



視察見学の様子

第39回中小企業団体青年部富山県大会を開催しました

富山県中小企業青年中央会

10月31日（火）、高岡市のスタートアップ支援の拠点施設「TASU（タス）」において第39回中小企業団体青年部富山県大会を開催し、県内の組合青年部の代表者19名が参加しました。

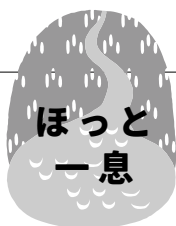
大会は二部構成となっており、第一部は、合同会社久遠代表 近江 清 氏を講師としてお招きし、「夢を追い越して」と題して講演会を行いました。近江氏は、1989年に食品加工事業などを行っている株式会社フォー・シーズン・ズに入社され、1994年に代表取締役社長、2017年に代表取締役会長を歴任、2020年に砺波市において合同会社久遠を設立し、人々に美食・美酒・美談を提供するため、日本式道楽割烹 久遠を開業されています。

第二部は、青年部発表会を行い、会員組合の中から選出された6名がそれぞれ「自分自身の夢についてのビジョンと未来」をテーマに、会社の理念や今後の事業展開についての発表を行い、最後に講師の近江氏から講評をいただきました。

その後、高岡市内の飲食店に場所を移動して交流会を開催し、会員相互の情報交換を行い、交流を深めました。



発表会の様子

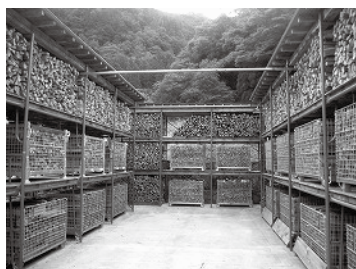


「カーボンニュートラル」で低炭素社会に貢献

木質ペレットや薪などの木質燃料を燃焼するとCO₂を排出しますが、その量は樹木が成長する上で吸収するCO₂の量と同じ量とされています。

ストーブやボイラー等で木質ペレットや薪などを焚く時に排出されたCO₂は森林や植物に光合成で吸収されるため、全体として大気中のCO₂の量はプラスマイナス「ゼロ」となります。

このような仕組みは「カーボンニュートラル」と呼ばれ、近年SDGsの観点からも注目されています。



建築用材等にならない低質な木材や、製材工場の残材などは利用されなければ廃棄物となります。しかし、これらがバイオマスエネルギーとして有効活用されれば、廃棄物を減らし、化石燃料の消費を減らし低炭素社会に貢献します。

(情報提供：南砺森林資源利用協同組合)

事務局 ベンリレー 軽トラガーデンコンテスト

今年の3月より現在の仕事に就きました。わからないことだらけで大変でしたが、組合員の皆さんに助けていただき、ようやく慣れてきたところです。

入社して2ヶ月ほど経った頃、花と緑のフェルティバルというイベントがありました。その中で「軽トラガーデンコンテスト」という催し物があるのですが、この軽トラガーデンに私はとても感動しました。皆さんは軽トラガーデンをご存知でしょうか？

軽トラガーデンとは軽トラの荷台の上に作られた小さな庭のことです。

そしてこの軽トラガーデンはなんと富山が発祥で日本各地に広まったそうです。

今年は11台の軽トラガーデンの出展がありましたが、一台一台、異なる美しさが表現されていて本当に見ていて飽きませんでした。風情のある日本庭園や、まるでジブリの世界に入り込んだような庭園、軽トラの荷台の上なのに滝が流れ金魚が泳いでいます。小人になりミニ庭園を散歩したいくらいでした。軽トラの荷台の上の小さな庭ですが、これは職人さんたちの技とセンスがたくさん詰まった芸術作品なのです。

私の自宅には庭はありませんが軽トラガーデンを見て、限られた狭いスペースでも工夫次第で素敵な庭が作れるのだなと感じました。現在では管理も大変で庭じまいをされる方も多いと聞きましたが、窓から庭が見える、なんて暮らしは素敵で憧れます。

普段、造園に触れる機会はなかなかないと思いますが、毎年春に行われる軽トラガーデンコンテストにぜひお越しいただき、軽トラの荷台の上の美しいミニ庭園をご覧くださいただいたらうれしいです。



富山造園業協同組合

職員 原 雅美氏

キモチを、カタチに。

企画・デザインから印刷・加工まで

 **TOYAMA SUGAKI**

富山スガキ株式会社

本社・本社工場／〒939-8585 富山県富山市塚原23番地1

TEL.076-429-3553(代)

立山工場／〒930-0272 富山県中新川郡立山町塚越234番2

北陸・東京・大阪・東海・滋賀

www.sugaki.co.jp



**協同組合
富山県ハイウェイサービスセンター**

- ・情報提供事業
- ・福利厚生事業
- ・高速道路別納事業
- ・車両燃料斡旋事業
- ・OA用紙共同購買事業

代表理事 **朝 日 重 剛**

〒930-0083 富山市総曲輪二丁目1番3号

TEL 076-493-6717 FAX 076-493-6718

URL: <http://www.t-hsc.or.jp> Mail: ths@t-hsc.or.jp

国が準備したセーフティネット

安心の材料をご提供します。

小規模企業共済制度

●制度の特長

1 経営者のための退職金制度

小規模企業の個人事業主（共同経営者を含む）または会社等の役員の方が廃業や退職後の生活資金、事業再建資金をあらかじめ準備しておく共済制度です。

2 掛金は全額所得控除

掛金は、全額が「小規模企業共済等掛金控除」として、課税対象所得から控除できます。

3 受取時も税制メリット

共済金の受取は、一括の場合は「退職所得扱い」、分割の場合は「公的年金等の雑所得扱い」です。

＼他にもこんな特徴があります。／

- ・月々の掛金は1,000円から
- ・契約者貸し付けの利用が可能
- ・共済金の受給権は差押禁止

退職金の準備を
中小機構が
お手伝いします



経営セーフティ共済

●中小企業倒産防止共済制度の特長

1 掛金の10倍の範囲内で最高8,000万円まで貸付け

「回収困難となった売掛金債権等の額」と「掛金総額の10倍に相当する額（最高8,000万円）」のいずれか少ない額となります。償還期間は共済金の貸付金額に応じて5年～7年（据置期間6か月を含む）で毎月均等償還です。

2 貸付条件は無担保・無保証人

共済金の貸付けは、「無担保・無保証人」「無利子」です。ただし、共済金の貸付けを受けますと貸付額の10分の1に相当する額が積み立てた掛金総額から控除されます。

3 掛金は税法上損金（法人）または必要経費（個人事業）に

掛金月額は、5千円～20万円の範囲内（5千円単位）で自由に選べます。

取引先の倒産から
会社を守る制度です！



共済相談室 TEL. 050-5541-7171 【受付時間】平日 9:00～17:00

令和5年9月から
オンライン
手続き
スタート

制度の詳細内容は2次元コード又はホームページからご確認ください。
ご要望の多い一部の手続きについてオンライン手続きが出来ます。

小規模企業共済

小規模共済

検索

経営セーフティ共済

経営セーフティ共済

検索





富山の豊かな自然にはぐくまれた 山と森の恵み

ひと昔前は食通が好むイメージが強かったジビエ料理ですが、近年はより身近になってきました。富山の豊かな自然にはぐくまれた山と森の恵みである「とやまジビエ」についてご紹介します。

ヨーロッパでは貴族の伝統料理

「ジビエ (gibier)」とはフランス語で、狩猟で得た野生鳥獣の食肉を意味しています。日本では、シカやイノシシのほか、カモ、キジ、野ウサギ、クマなどが挙げられます。

ジビエ料理は、ヨーロッパでは貴族の伝統料理であり、古くから愛されてきた食文化です。ノーベル賞受賞者の晩餐会では、メインディッシュにシカ肉を使った料理が振る舞われるそうです。日本でジビエ料理が一般に広まったのは明治時代以降といわれています。日本にも狩猟肉を食べる文化は古くからあり、肉食を禁忌としていた江戸時代には、ぼたん(イノシシ肉)、もみじ(シカ肉)などと植物の名前を隠語として使用し、食べていたそうです。

貴重な栄養源や薬として

自然豊かな野山で育った天然のお肉は、とても味わい深いものです。富山の山間地でも貴重な栄養源や薬として、すべての部位を余すところなく利用されてきました。

「とやまジビエ」は、富山の豊かな自然ではぐくまれた、野生鳥獣のお肉のこと。捕獲されたイノシシやシカなどのお肉を食用として売るには、食品衛生法などのさまざまな基準をクリアする必要があります。富山県では、「富山県獣肉の衛生管理及び品質確保に関するガイドライン」等を策定。県内で捕獲された野生鳥獣の肉をガイドラインに沿って適正に処理、加工することで、安全で良質な「とやまジビエ」を提供しています。

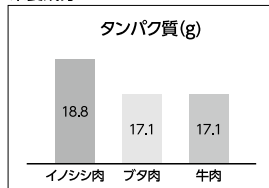


「とやまジビエ」のロゴマーク

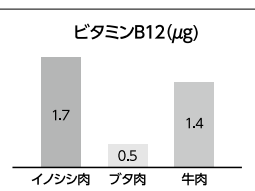
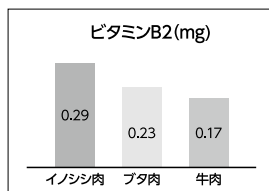
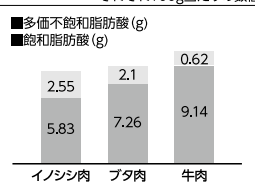
ヘルシーで美容にも効果的

とやまジビエのなかでも、イノシシ肉は牛肉や豚肉と比べて、低脂肪で高タンパク、ヘルシーなお肉として注目されています。ほかに、中性脂肪や悪玉コレステロールを増やす原因とされる飽和脂肪酸が少ないうえに、血液をサラサラにする効果のある多価不飽和脂肪酸が多いという特徴も。さらにビタミンB2、B12、鉄分も豊富とされ、美容や冷え性にも効

栄養成分



それぞれ100g当たりの数値



参考：文部科学省 日本食品標準成分表2015年版(七訂)



とやまジビエを使った多彩な料理



果的だそうです。また、シカ肉は赤身に脂肪がほとんど含まれていないため、さっぱりとクセのない味わいです。捕獲時期や場所、食べるものによって味わいが異なるのもジビエの特徴です。

ジビエの活用で地域活性化を

近年、全国的にイノシシやシカによる農作物被害が大きな問題となっています。農作物を食べられたり、田畑や樹木などを荒らされたりすることで、里山地域で農業に取り組む人々の意欲が低下。その結果、耕作放棄地が増え、野生動物の生息域が民家の近くまで広がりつつあります。

富山県でも被害防止対策の一環として捕獲を進めています。捕獲された野生鳥獣のほとんどは山に埋められるか焼却され、食用として出回るのは1割にとどまっています。とやまジビエの普及は、捕獲した命を無駄にせず地域の資源として有効活用していくことであり、中山間地域の活性化にもつながっていききたい考えです。

とやまジビエ、多彩なメニュー

富山県では、とやまジビエの認知度を高めるため、「食の王国 秋フェスタ2023」では、シカ肉を使った和風ポトフやジビエソーセージのホットドッグなどを紹介しています。

2022年から県内トップシェフによる、とやまジビエを使った特別食事を(ガラディナー)を開催。また、富山市八尾を拠点とする猟師の石黒木太郎さんを講師として「命に向き合う授業」を開き、高校生たちに富山の自然にはぐくまれた恵みと命に感謝することの大切さを伝えています。

県内約30の飲食店が参加する「とやまジビエフェア」が2024年2月末まで開催予定です。多彩なジビエ料理に触れて、富山の食の豊かさを再認識させてくれる機会となります。



ニホンジカの角やツキノワグマの毛皮を見せながら、捕獲したときの状況を説明する猟師の石黒木太郎さん

企業立地マッチング促進事業(委託元:富山市)

富山
市内で

空き工場・用地等をお探しの方へ!

ホームページはこちらです

<https://aki-toyama.jp/>



QRコード



業務提携: (公社)富山県宅地建物取引業協会 (公社)全日本不動産協会富山県本部

アクセス方法は
こちら!



検索サイト

空き工場 富山

検索

HPアドレス

URL <https://aki-toyama.jp/>

ホームページや本事業に関するお問い合わせ

〒930-0083 富山市総曲輪2-1-3 富山商工会議所ビル 6 階
富山県中小企業団体中央会 工業支援課
TEL:076-424-3686 FAX:076-422-0835

R5.7